

## 平成23年度 入学式式辞

校内外の草木が芽吹く中、希望に輝きながら109名の一年生の皆さんが姉崎中学校へ入学することを心から歓迎いたします。また、PTA会長 小高 幸男 様をはじめ多くのご来賓の皆様、及び保護者のご臨席を賜り、平成23年度入学式を挙行できますことを、衷心より感謝申し上げますとともに、厚く御礼を申し上げます。

新入生の皆さんにお話しをする前に昨年度の卒業式後におきた東日本大震災で被災し亡くなられた多くの方々に対し心より哀悼の意を表すと共に、今も被災し食べるものも少なく住むところも働く場所もなく避難しているの方々には一日も早い復旧を心より願っております。そのためにわれわれは考えることも大切ですが、まずすぐに自分のできることをしていくことも大切ではないでしょうか、それはわたしたちの明日のためにも。

さて新入生の皆さん、いよいよ中学生ですね。中学校に入ると教科担任制、生徒会、部活動と新しい学校生活が数多く待っています。その中学校生活を楽しみ大きく成長するために皆さんにお願いしたいことが三つあります。

その一つは夢を持つことです。誰にも叶えられないような大きな夢、学校教育を終えての将来の夢、どんな夢でもかまいません、その夢実現に向けて着実に一步一步毎日をすすんでいって下さい。そうすれば学習面・生活面にもメリハリがつき、有意義な中学校生活を送れることでしょう。

続いて二つ目は「あいさつ」です。『何だ、そんなことか！小学校の時はみんなしていたよ。』と思うかもしれませんが、あいさつは小さいうちはできても大きくなると周りを気にするあまりできなくなります。小学校の時、学級で先生の質問に「はい」と大きな声で手を上げるのに、中学校2、3年生になるとわかっていても手が上がらなくなるのとどこか似ています。あいさつには人と人が心をふれあうための道しるべといった大きな役割があります。メディアでも「挨拶は魔法の言葉」と私たちに語りかけています。是非自分から挨拶を試みましょう。まずはそれを卒業するまで続けてみましょう。そうすれば皆さんの夢実現の一助になることまちがいありません。

三つ目は集団でのルールを守ることです。昔はおじいちゃんおばあちゃんが、そして多くの兄弟といった大家族が集団の母体となり、その中で知らず知らずのうちに「集団生活」「集団の中での個人のあり方」を学んだものです。しかし少子化がすすむ昨今では、学校こそが集団の中での生活の仕組みや集団の中での「個」を磨く数少ない場といっても過言ではありません。是非自分の考えをしっかりと持ち、たくさんの仲間をつくり共に語りあうなかで集団のルールを学びましょう。でも『ちょっと集団で話すのは苦手！』という人にワンポイントアドバイスです。人と話す時に「どうもありがとう」「ごめんね」「そうだよ」といった言葉を使って下さい。きっと人と話すのが楽しくなりますよ。

終わりにになりましたが、保護者の皆様に申し上げます。本日より、109名の大切なお子様を、お預かりいたします。義務教育最後の三年間ですが、私たち教職員一同、全力で頑張る所存です。

また、家庭と地域と学校が、一体となって連携を深めていけば、お子様の能力を伸ばし、教育活動は充実したものになると信じています。皆様方のご理解とご協力を申し上げ、式辞といたします。

平成23年4月7日

市原市立姉崎中学校

校長

内藤 武男